Osaka University of Economics Working Paper Series
No. 2015-1

金日成，金正日と「反党反革命宗派分子」―文浩一氏の問題提起にこたえて－

大阪経済大学　経済学部
黒坂　真

2015 年 7 月

金日成，金正日と「反党反革命宗派分子」－文浩一氏の問題提起にこたえて－

黒坂真

要旨

本稿の課題は,北朝鮮当局の公表資料と北朝鮮に居住,滞在経験のある人の話を照合して,北朝鮮では体制に不満を抱きそれを漏らした人々が処刑ないしは「管理所」という政治犯収容所に連行されうることを示すことである。北朝鮮当局の公表資料と，北朝鮮当局作成の非公表資料,北朝鮮社会に居住，滞在経験のある人々の話や著作，手記を照合するべきだ。文氏は「一次資料」「二次資料」「関係筋」という語の定義をしていない。文氏の北朝鮮当局や社会に対する認識，評価手法は，人を公の場での言動のみに依拠して判断する手法と酷似している。金正日が説いた「社会的政治的生命体」論によれば領袖は社会的政治的集団の最高頭脳である。領袖，党,大衆から離れた孤立した生活は人間の本性に反する価値のない生活である。金正日によれば北朝鮮では租税制度が完全に廃止され,人民は税金という言葉さえ知らずに幸せに暮らしている。金日成，金正日の労作の記述否定につながる統計を担当者が発表すれば,真偽はどうあれ担当者は「反党反革命宗派分子」とみなされうる。公開処刑を見聞した脱北者は数知れない。北朝鮮には金日成，金正日，金正恩の三代世襲奢侈生活を支える宮廷経済が存在する。

キーワード

北朝鮮　金日成　金正日　チュチェ思想　宮廷経済

再度文浩一氏による拙稿批判について論じる[1]

本稿の課題は,北朝鮮当局の公表資料と北朝鮮に居住,滞在経験のある人の話を照合して,北朝鮮では体制に不満を抱きそれを漏らした人々が処刑ないしは「管理所」という政治犯収容所に連行されうることを示すことである。本稿は拙稿への文浩一氏（以下，文氏）による批判と,「北朝鮮当局の公表資料を利用すべきだ」という文氏の提起への再度の答えである。

現代社会で私たちは,沢山の人と巡りあう。そのときに交わす言葉や仕草，声色，表情が生み出す心と心のふれあいから,その人とより深く交流するべきか否かを判断する。人物判断の際,相手が公の場で行った発言や行動だけを判断基準とすべきだろうか。公の場での言動を参考にすることは当然として，その人の友人や恋人，家族に対する言動や態度など，私的な場での言動の情報も可能な限り入手して判断しているのではないか。誠実そのものにみえる人にも，表に出

[1] 文（2011）（2013）（2014），黒坂（2013-1）(2015)参照。

せない,「裏の顔」ともいうべきものがあってもおかしくない。墓場まで持っていきたいような心の秘密がある人は少なくない。「裏の顔」「心の秘密」を他人が完全に知ることは不可能だが，友人や恋人，家族への言動から手探りで推し量り真実に接近することは可能だろう。その人の本当の姿，内面は表の言動とは大きく異なっているかもしれない。悪質な政治家や暴力団関係者なら，本性を徹底的に隠蔽するだろう。
企業や国家，社会団体の評価でも同様だ。公の文献,宣伝物やホームページだけでは表面しかわからない。庶民を脅迫ないしは詐欺行為により儲けている暴力団関連企業や社会団体の場合,宣伝物だけで脅迫や詐欺の実態を推し量ることは難しい。脅迫や詐欺により被害をうけた庶民の声無き声，状況証拠を集めていけば,徐々にその企業，社会団体の悪質さと背後に居る凶悪な暴力団関係者の実態が明らかになるだろう。

北朝鮮当局（金日成，金正日，金正恩と朝鮮労働党）および北朝鮮社会の真実を知るためにも同じことが言える。北朝鮮当局の公表資料と，北朝鮮当局作成の非公表資料,北朝鮮社会に居住，滞在経験のある人の話や著作，手記を照合するべきだ。金日成の著作集に掲載されている論考によれば,北朝鮮は「地上の楽園」である。金日成は「反党分派分子」を「処断」したという。それならば「処断」された「反党分派分子」にとって北朝鮮は地獄だったことになる。金日成著作集にある「地上の楽園」という表現は虚偽宣伝であり，悪質企業の宣伝文句と同様に把握されるべきであろう。

黒坂（2015）は,北朝鮮の国民が政治的な弾圧，拷問による死と，食糧不足による死という二種類の死の恐怖に直面していることを指摘した。黒坂（2015)は「党の唯一思想体系確立の十大原則」（以下，十大原則）という非公表文書が,北朝鮮社会および在日本朝鮮人総連合会関係者により構成されている小社会を読み解くために重要であることを指摘した。

文氏は，北朝鮮当局発表の公表資料を「一次資料」とみなし,活用することを拙稿への反論の末尾で主張している（文 2014, p48)。しかし北朝鮮当局作成の非公表資料について文氏は言及していない。文氏は，脱北者，拉致された韓国人，拉致された日本人，在日本朝鮮人総連合関係者らを「関係筋」と把握し，彼らがもたらす情報を「関係筋の情報」「二次資料」として利用を排除する。文氏は「一次資料」「二次資料」「関係筋」という語の定義をしていない。脱北者，拉致された韓国人，拉致された日本人，在日本朝鮮人総連合関係者らの共通点は北朝鮮に滞在，居住経験があるということのみである。北朝鮮に滞在，居住した経験がある方は皆「関係筋」であるなら，文氏も「関係筋」であり，文氏が北朝鮮に行って当局と面談して得た情報も「関係筋の情報」と言える旨，黒坂(2015)は指摘した。当然，現在北朝鮮に住んでいる人，金正恩や金予正，李雪

柱も「関係筋」である。金日成は中国共産党の指導下でゲリラ活動をやった。日本軍に追われてソ連領に逃げた後は, 極東ソ連軍の一大尉になった（徐 2013, 第三，四章）。金日成は中国，ソ連に居住経験があるからソ連、中国の「関係筋」だったとも言えるが，それだけで金日成の著作や論文がすべて偽であると論証できるはずがない。文氏の北朝鮮当局や社会に対する認識，評価手法は，人を公の場での言動のみに依拠して判断する手法と酷似している。この手法では北朝鮮当局（金日成，金正日,金正恩と朝鮮労働党）および北朝鮮社会の表面しか見えてこない。文氏が北朝鮮当局作成の非公表資料，例えば「十大原則」を「一次資料」と捉えて北朝鮮の現実を分析しない理由は不明である。どんな企業でも団体でも，非公表資料が存在するはずだ。それを入手できたなら，その企業や団体の実態を探求するための重要資料ではないか。まして，その企業や団体の全構成員の言動を規定する非公表文書が存在するなら，その企業，団体分析のために極めて重要な資料になるはずだ。暴力団の場合，組長や若頭の下部への指令文書が存在するなら極めて重要な資料であるが，それが公表されているはずもない。組長や若頭が下部に出している指令は，暴力団の周囲にいる人物や被害にあった住民からの聞き取り調査により手探りで把握していくしかない。北朝鮮当局が公表した資料を利用すべきだという文氏の問題提起は理解できる。後述するように私はそれを利用してきた。そこで本稿では，文氏の提起にこたえ，改めて金日成および金正日の著作から，北朝鮮では「反党反革命宗派分子」らが処刑ないしは政治犯収容所送りにされる現実を解明する。2 で北朝鮮当局が作成した公表資料をどのように利用するべきかについて私見を述べる。3 で金日成の著作にある「宗派分子」について考察する。4 で，金正日の伝記，著作にある「反党宗派分子」と「社会的政治的生命体論」について考察する。5 で，最近の「反党反革命宗派分子」である張成澤を糾弾する北朝鮮当局の公表資料と，北朝鮮の刑法,「十大原則」について考察する。6 で，北朝鮮では公開処刑が行われているという,拉致された韓国人李在根と日本人妻斎藤博子，黄長燁らの証言を紹介する。7 で藤本健二と在日本朝鮮人総連合会関係者，脱北者の手記から浮かび上がってくる金正日の奢侈生活と北朝鮮経済の特殊な構造を指摘する。北朝鮮には金日成，金正日，金正恩の三代世襲奢侈生活を支える宮廷経済が存在する。39 号室という部署がその中心である。8 で元在日朝鮮人高英姫の存在が晩年の金正日の「心の秘密」だったことを指摘する。9 で文氏に改めて問題提起をする。北朝鮮当局作成の公表資料の利用を主張する文氏は,「反革命分子」らの「処断」を主張する金日成，金正日の著作や，張成澤の処刑を報じる公表資料および北朝鮮の刑法をどのように利用しているのだろうか。

2・北朝鮮当局の公表資料をどう利用するか

はじめに，この問題についての私見を要約する。黒坂(2013-2)は金日成の著作や北朝鮮当局の公表文献をどのように読むかという点について，代表的な既存研究を概観した。その上で黒坂(2013-2)は金日成の著作を資源配分上の効率，非効率にどのように関係しているかという視点から読み込むことができると主張した。黒坂(2013-3)は，1952 年刊行の「金日成選集」第一巻が金日成をスターリンの弟子の一人と明言していたこと，それが当時の北朝鮮当局の宣伝方針だったことを指摘した。

黒坂(2014)は，金日成がかつてスターリンとソ連，中国を礼賛していたこと，金日成の著作でその部分が削除，修正されていったことを指摘した。金日成の著作の削除や修正は，金正日による何らかの決済を経ていたと考えられる。金正日は映画や音楽に造詣があった。金正日は金日成を首領とする「社会政治的生命体」の一員として首領と一体化しているという陶酔感に人々を浸らせることが，体制固めに重要であると考えていた。黒坂(2014)はこれをモデル化し，金正日は「革命的首領観」の確立により，崇拝労働結晶物の効率を向上させようとしたと考えた。

黒坂(2014, pp. 28-29)は，北朝鮮社会の様々な組織，社会団体でそれぞれの団体運営に関連する金日成の「教示」，金正日の「お言葉」に依拠した組織方針文書がありうることを指摘した。組織方針文書は在日本朝鮮人総連合会のものなどごく一部しか公開されていない。我々は公開された「金日成選集」「金日成著作集」「金正日著作集」「金正日伝」，そのほか北朝鮮当局作成の公表資料と非公表資料，北朝鮮に居住，滞在経験のある人の証言を照合し，金日成，金正日の「教示」「お言葉」がどのように社会に浸透させられているかを検討していくべきである。その際，脱北者や在日本朝鮮人総連合会関係者，拉致された韓国人や拉致された日本人の証言，著作は貴重な資料となりうる。勿論，人には記憶間違いや思い違いがありうるし，何かのもくろみで虚偽の記載や証言をする人もいることも考慮せねばならない。

黒坂(2015, p1)は，独裁体制の現状を解明するためには，独裁者の公表，非公表文書による指令を国民の動向と照らし合わせて現実的意味を検討するべきと主張した。黒坂(2015)は，北朝鮮当局作成の非公表資料「党の唯一思想体系確立の十大原則」が北朝鮮の独裁体制および在日本朝鮮人総連合会関係者が形成している小社会を読み解くために極めて重要な資料であること，文氏による一連の業績にこの視点がないことを指摘した。次に，北朝鮮当局作成の公表資料を利用して北朝鮮社会の分析を試みる。

3. 金日成の著作に見る「裏の顔」と「反革命分子」

（3-1）「金日成選集」と「金日成著作集」にみる「反革命分子」

「金日成選集 4 上下」（1962, 1964 年日本共産党中央委員会出版部発行，以下 62, 64 年本と略），「金日成二巻選集第一巻，第二巻」（1966 年日本共産党中央委員会出版部発行，以下 66 年本と略）と，「金日成著作集　第 1 巻，第 4 巻」（1970 年，71 年未来社刊行，以下 70 年本と略），「金日成著作集」（平壌外国分文出版社刊，以下著作集と略）にそれぞれ掲載されている金日成の次の論考について検討する。
論文 1「すべての力を祖国の統一独立と共和国北半部における社会主義建設のためにーわが革命の性格と課題に関するテーゼー」（1955 年 4 月）
論文 2「党員の階級的思想教育をいっそう強化することについてー朝鮮労働党中央委員会総会でおこなった報告ー」（1955 年 4 月 1 日）
論文 3「思想活動において教条主義と形式主義を一掃し主体を確立するためにー党の宣伝，扇動活動家におこなった演説ー」（1955 年 12 月 28 日）
論文 4「朝鮮労働党第四回大会にたいする中央委員会の報告ー（1961 年 9 月 11 日）

表 1 論文掲載の有無

	62, 64 年本	66 年本	70 年本	著作集
論文 1	○	○	○	○
論文 2	○	○	×	○
論文 3	○	○	○	○
論文 4	なし。	○	○	○

以下，上記論文の中で特に注目すべき点を指摘する。論文 1 は，北朝鮮を「朝鮮半島の北半部における民主基地，革命の根源地」，南朝鮮（韓国）を「アメリカ帝国主義の植民地」と規定した。この規定を北朝鮮当局は今日も継承している。南北首脳会談を二度行ったにも関わらず北朝鮮当局は韓国政府を「傀儡」とよんでいる。62 年本（上巻 p198）66 年本(p274)，70 年本(p172)，「著作集」（9 巻，p206）の論文 1 に次の記述がある。
「われわれは，アメリカ帝国主義者をわが国からおいだすことなしには，その手先李承晩一味を粛清（70 年本と「著作集」では一掃）することなしには，革命の課題を完遂することはできない。」
北朝鮮にとって，韓国政府は「一味」であり「粛清」ないしは「一掃」の対象

なのである。従って南朝鮮人民を解放するためには，韓国の大統領ら要人をあらゆる手段で「一掃」「粛清」せねばならないという結論が導かれる。1968 年の青瓦台事件，1983 年のラングーン事件などの韓国大統領暗殺を策したテロはこの規定に依拠している。
64 年本（p210），66 年本(p287)，70 年本(p183)，「著作集」（9 巻 p218）の論文 1 に次の記述がある。
「反革命分子とスパイ，破壊分子，害毒分子(70 年本では「謀略分子」)などにたいする独裁を強化し，人民大衆のなかで民主主義を発揚させることは，社会主義建設を成功裏に遂行するための重要な条件である」
論文 2 が 70 年本に掲載されていない理由は不明である。62 年本（上巻 p221），66 年本(p295)，「著作集」（9 巻，p225）に次の記述がある。
「敵は，思想的に堅実でない動揺分子や過去に生活の潔白でなかった者を，破壊活動に利用しようとたくらんでいる。アメリカ帝国主義にやとわれたスパイ朴憲永，李承燁一味と，その他の破壊・害毒分子を摘発して処断したのは，共和国北半部にたいするアメリカ帝国主義者と李承晩一味の，ひれつで凶悪な敵対行為を暴露した実例である。」
論文 1 の「反革命分子とスパイ，破壊分子，害毒分子」，論文 2 の「破壊・害毒分子」については後述する。64 年本(下巻 p70)，66 年本(p388)，70 年本(p205)，「著作集」（9 巻，p446）の論文 3 に次の記述がある。
「だから，とくに指導的な働き手（66 年本，70 年本,「著作集」では「活動家」）のうち，許カイや朴一禹の影響をうけた人びとの思想を改造し，かれらにしっかりした党的思想体系を確立させることが重要である。党組織指導部と宣伝・扇動部は，こうしたしごとをしなければならない」
金日成の論考のこの部分から，朝鮮労働党には「組織指導部」「宣伝・扇動部」という部署があり，「思想改造」「党的思想体系の確立」のような業務を担当していることがわかる。朝鮮労働党内のこの二つの部署が大きな権限を持っていることを指摘する脱北者は，黄長燁など少なくない。
64 年本（下巻 p75），66 年本(p393)，70 年本(p210)，「著作集」(9 巻，pp. 450-451)の論文 3 に次の記述がある。
「同志諸君(「著作集」ではみなさん)は，反革命分子のこのような謀略と中傷をするどくみわけ，それとたたかうことができるようにならなければならない。党員が，スパイもみわけることができ，動揺分子，家族主義者，地方主義者，分派分子などをよりわけることができるよう，かれらを教育しなければならない」
論文 1 の「反革命分子とスパイ，破壊分子，害毒分子」および論文 3 の「動揺分子，家族主義者，地方主義者，分派分子」とはどんな人物像を意味している

のだろうか。家族主義者をこの言葉だけから判断すると仕事より家庭を重視する方としか思えないが，凶悪な人物なのだろうか。論文 2 で金日成は「スパイ朴憲永，李承燁一味と，その他の破壊・害毒分子」を摘発，処断したと述べているが，「処断」とは具体的にどんな行為を意味しているのだろうか。金日成の著作だけではわからない。金日成，北朝鮮当局の「裏の顔」が「反革命分子」「破壊分子」「分派分子」と「処断」という語に出ている。

（3-2）「金日成著作集」（第 21 巻）にみる「党の唯一思想体系の確立」と「ある副首相の指示の学習」

「金日成著作集」第 21 巻に，「党活動を改善し，党代表者会議の決定を貫徹するために」（1967 年 3 月 17－24 日）という論考が掲載されている。この論考で金日成は，「幹部の間に党の唯一思想体系が確立されていないため，党の指示は形式的に実行しながらも，個別的な幹部の指示にたいしては祀り上げています］と述べている（21 巻，p129）。金日成によれば慈江道や平安北道などでは，ある副首相の指示を学習している。あるところでは党中央委員会の某部長の「教え」とういう言葉まで使っている。これらはいずれも，党の唯一思想体系とまったく縁のない，正しくない傾向であると金日成は述べている。この時期に，金日成に異を唱える幹部がいたことを示唆している。「著作集」のこの記述は，前述の不破哲三の証言と重なる部分がある。

（3-3）「地上の楽園」と「宗派分子」「反革命分子」

北朝鮮当局作成の公表資料は北朝鮮を「地上の楽園」「人民は等しく幸せな生活を営んでいる」と規定しているが，「宗派分子」と「地上の楽園」の関係はどうなっているのだろうか。金日成著作集第 29 巻掲載の「税金制度の完全な廃止について」（1974 年 3 月 21 日）と金正日の論考「人民大衆中心の朝鮮式の社会主義は必勝不敗である」（「チュチェ思想の継承発展について」掲載，p260）によれば，北朝鮮では税金が完全に廃止された。金日成著作集掲載の上記論文によれば不滅のチュチェ思想とその輝かしい勝利によって，朝鮮人民は搾取と抑圧がなく，税金もない社会主義の地上の楽園で，より豊かでより自主的かつ創造的な生活を営めるようになった。金正日によれば，朝鮮労働党と共和国政府の人民的施策によって，朝鮮人民はだれもが食・衣・住に必要ないっさいの条件を国家と社会から実質的に保障され，ひとしく幸せな生活を営んでいる。これらの記述から「朝鮮人民」には，処刑ないしは政治犯収容所に連行される「反革命分子」「反党宗派分子」が含まれていないと考えられる。

センサスを担当する部署が,「反党宗派分子」に相当する政治犯収容所で囚人として生活している人々を「朝鮮人民」とみなしセンサスの対象としたとは考えにくい。政治犯収容所に連行された人々は公民証を剥奪されていると考えられるからだ。政治犯収容所にセンサス担当者が立ち入るためには，金正日にそれを提議し，決裁を得ねばならない。金正日の決裁を得ないで政治犯収容所に立ち入ろうとしても，そこを管理している国家安全保衛部に立ち入りを拒否されてしまう。国家安全保衛部から「反革命」という疑いをかけられうる。

4. 金正日の著作，伝記と「反党反革命分子」「民族反逆者」

次に，金正日に関連する著作から，北朝鮮の人々がどういう場合に「反党反革命分子」「民族反逆者」と認識されるのかを検討する。

（4-1）金正日の伝記にみる「反党反革命分子」と「全社会のチュチェ思想化」

金正日伝第一巻(2004, pp. 83-84）によれば,1956 年の労働党中央委員会八月総会を機に,労働党内に潜入していた反党反革命分子たちは,金日成を首班とする革命の首脳部を真っ向から攻撃し,党と政府を転覆する武装暴動をおこして親米政権をつくる陰謀を企てていた。金正日は,歴史的経験によれば反党反革命分子にたいしてはわずかな幻想も抱いてはならず,分派分子を憎悪しセクト主義のささいな現れにも反対して断固たたかいために提起される問題を明らかにしたという（金正日伝第一巻，p86)。

この記述も,後述の金乙星や呂政の指摘と重なる点がある。武装暴動をおこして親米政権をつくる陰謀があったとは断言できないが,朝鮮戦争後の時期なら金日成に挑戦する人々がいてもおかしくない。

金正日伝第一巻（2004，p387）によれば,金正日は朝鮮人民の民族的自尊心の根源は金日成にたいする忠誠心にあるとして,在日同胞の民族的自尊心を高めるための教育活動を金日成への忠実性教育と結びつけておこなうよう指導した。金正日伝第一巻は金正日の次の言葉を紹介している。

「総連と在日同胞は，いかなる逆境にあっても変わることなくひたすら金日成同志を信頼し,金日成同志の教えにそって進まなければなりません。金日成同志に忠誠をつくすこと,まさにこれこそが総連の基本的な活動方向であり，在日朝鮮人運動のチュチェといえるのです」。

金正日伝第一巻（2004，p387）によれば,金正日は在日朝鮮人運動が朝鮮革命の一部分であり，金日成同志の思想と指導を実現していく民族的愛国運動であると指摘した。金正日は，総連は在日同胞が金日成同志に忠実であるように教

育活動を強化し，いかに不利な状況のなかでも金日成同志にかわることなく忠誠をつくす人たちで指導中核の陣容を固めなければならないと強調した。これらから，在日本朝鮮人総連合会関係者により構成されている小社会では，「十大原則」や金日成の「教示」，金正日の「お言葉」が絶対的な規範にされていると考えられる。在日本朝鮮人総連合会関係者の中で金日成や金正日に批判的な言動をすれば，「民族的自尊心を失った」「民族反逆者」とみなされうる。

金南鎮(1996, p15)によれば，金正日は 1964 年 6 月 19 日から朝鮮労働党中央委員会で活動を始めた。この頃，党の要職を占めていた反党不純分子らは「集団指導」をうんぬんしながら，金日成主席の唯一思想体系，唯一指導体制の確立と強化を陰に陽に妨げ始めた。金正日は反党修正主義者を粉砕するたたかいをつうじて，偉大な領袖の唯一的指導を強化し，朝鮮労働党の思想・意志的統一団結をかちとったと金南鎮は述べている。金南鎮(1996, pp16-17)，在日本朝鮮人総連合会編（1995, p53）によれば 1974 年 2 月 13 日の朝鮮労働党中央委員会第五期第八回総会で金正日は党中央の政治委員会委員に選出し，チュチェ革命偉業の唯一の継承者として推戴された。在日本朝鮮人総連合会編「金正日略伝」（1995, p56）によれば金正日は全社会のチュチェ思想化綱領の実現へ全党員と人民を正しく導いた。1974 年 4 月 14 日には，主席の偉大さと不滅の業績を全面的に明らかにし，全党と社会に主席の唯一思想体系を確立するための諸原則を明らかにした。全党をチュチェ思想化するためには，党内に金日成主席の唯一思想体系と金正日将軍の唯一指導体系を確立し，党の唯一団結を盤石なものにする必要があったと在日本朝鮮人総連合会編「金正日略伝」（1995, p57）は述べている。

「主席の唯一思想体系を確立するための諸原則」とは，「党の唯一思想体系確立の十大原則」を指している。金南鎮（1996）は，60 年代後半に朝鮮労働党中央で金日成に挑戦する一派があったことを示唆している。これは，「金日成著作集」21 巻「党活動を改善し，党代表者会議の決定を貫徹するために」の記述と整合的である。

金正日伝第二巻(2005, p24)によれば金正日は，全社会をチュチェ思想化するうえでもっとも重要な問題は，社会の全構成員を金日成に忠実なチュチェ型の革命家にすることであるとみなした。チュチェ型の革命家のもっとも基本的な品性は金日成への忠実性である。人々をチュチェ型の革命家に育てるうえでの原則的な問題とは，金日成に忠実にしたがい，その権威を守り，思想を信念とし，教えを信条化し，その実行において無条件性の原則を守ることである。金正日伝二巻のこうした記述は，「党の唯一思想体系確立の十大原則」と似ている。次に，金正日の著作で「反革命分子」と「全社会のチュチェ思想化」を確認しておこう。

（4-2）金正日の著作にみる「反革命分子」「全社会のチュチェ思想化」

金正日（1995）掲載の論考「人民大衆中心の朝鮮式の社会主義は必勝不敗である」によれば,社会主義的民主主義は,人民大衆には民主主義を実施するがそれを侵害する階級の敵には独裁を実施する（金正日 1995, p252）。金正日(1995, p254)によれば真の民主主義は労働者階級の党の指導のもとに,国家の中央集権的指導が実施される条件でのみ保障される。社会主義社会は領袖,党,大衆が一つの社会的政治的生命体をなす社会である（金正日 1995,p255）。社会主義社会において,人々は労働者階級の党組織と党の指導する政治組織で正しい政治組織生活をしなければ,自己の社会的政治的生命体を輝かしていけない。誤った道におちこんで社会的政治的生命体を汚し,反革命分子の誘惑にまけて反動派の利用物になりかねない(金正日 1995,p256)。社会主義社会は,その本性からして労働者階級の革命思想の全一的支配を求める。

金正日(1995, pp. 259-260)によれば，朝鮮労働党と共和国政府の人民的施策によって，朝鮮人民はだれもが食・衣・住に必要ないっさいの条件を国家と社会から実質的に保障され，ひとしく幸せな生活を営んでいる。人民は国家からの無料に等しい安値の食糧供給をはじめ，食・衣・住に必要なあらゆる条件と無料教育，無料治療の恩恵をこうむっているばかりか，いっさいの租税制度が完全に廃止され，税金という言葉さえ知らずに暮らしている。朝鮮労働党と領袖の賢明な指導と大きな配慮によって，社会の全構成員が食・衣・住の心配を知らず，ひとしく豊かな暮らしをし，互いに助け導きあいながら幸せな生活を営んでいるのが，朝鮮人民の社会主義的物質生活の面貌である。

金正日が著作でここまで断言しているのだから, 90 年代後半の大飢餓により総人口が減ったとき，統計を担当し発表する政府の担当者がそれを発表することは極めて困難だったと考えられる。餓死者が出ているのなら，その人たちは食・衣・住に必要なあらゆる条件，無料治療の恩恵をこうむっていなかったことになる。それは朝鮮労働党と領袖の指導が悪かったからだという話にすらなってしまう。「全社会のチュチェ思想化」を真っ向から否定することになり，統計の担当者は「反革命分子」とみなされ処刑ないしは政治犯収容所送りを覚悟せねばならない。

（4-3）金正日の「社会的政治的生命体」論

次に，金正日の「思想」の重要な特徴である「社会的政治的生命体」論から金日成，金正日へのセンサス実施の現実性を考えよう。

金正日（1995, pp. 135-158）に「チュチェ思想教育における若干の問題について－朝鮮労働党中央委員会の責任幹部との談話－」が掲載されている。金正日によれば，人民大衆は朝鮮労働党のもと領袖を中心に組織的，思想的に結束することにより，不滅の自主的な生命力をもつ一つの社会的政治的生命体をなす。個々の人間の肉体的生命にはかぎりがあるが，自主的な社会的政治的生命体に結束した人民大衆の生命は不滅である。社会的政治的生命体は多くの人でなりたっているため，そこには社会集団の生命活動を統一的に指揮する中心がなければならない。個々人の生命の中心が頭脳であるのと同じように，社会的政治的集団の生命の中心はこの集団の最高頭脳である領袖である。個々人は党組織をつうじて社会的政治的生命体の中心である領袖と組織的，思想的に結合し，朝鮮労働党と運命をともにするとき，不滅の社会的政治的生命をもつようになる。人びとは，党組織と党の指導する社会・政治組織の一員として組織・思想生活に積極的に参加することによってのみ，社会的政治的生命体の中心である領袖との血縁的な結びつきを強固にし，自己の社会的政治的生命を輝かせていくことができる。チュチェ思想は，肉体的生命の要求をみたすための生活は動物の生活と変わるところがなく，領袖，党，大衆から離れた孤立した生活は人間の社会的本性に反する価値のない生活とみなす。金日成はわれわれすべての偉大な教師であり，政治的生命の父である。金日成にたいするわが党員と勤労者の忠実性は一点のくもりもない純潔なものであり，絶対的かつ無条件的なものである。金日成は不滅のチュチェ思想を創始した偉大な思想家・理論家であり，アメリカ帝国主義と直接対峙している困難かつ複雑な環境のもとで，社会主義・共産主義への前人未到の道に人民を賢明に導いている偉大な政治家である。世界の多くの進歩的人民は，こぞって金日成の創始した不滅のチュチェ思想を学んでおり，金日成を偉大な教師としてかぎりなく尊敬している。金日成の著作には，チュチェの思想，理論，方法が全面的に集大成されており，革命と建設で提起されるあらゆる理論的・実践的問題と，それを解決するための具体的方途が明白に示されている。金日成の著作は，革命と建設にかんする真理を体現した百科全書であり，チュチェ思想の叢書である。

金正日の「社会的政治的生命体」論によれば，金日成や金正日の指令に少しでも疑問を持つことそれ自体が絶対性，無条件性に欠けることであり，領袖から離れることになるから価値のない生活を送ることになる。金日成や金正日の家族関係をセンサスで調査すれば，金日成や金正日の女性関係，子供の数などが明らかになる。金日成や金正日の女性関係を調査することを，センサスを担当する部署が朝鮮労働党の組織を通じて金正日に提議し決裁を得ようと発言したら，その時点でその方々は国家安全保衛部により政治犯収容所送りになりうる（例えば康（1998, p59）参照）。

5. 「反党反革命宗派分子」「万古逆賊」張成澤と北朝鮮の刑法

（5-1）張成澤処刑の報道文と朴南基，李竜河と張秀吉

近年の「反党反革命宗派分子」といえば，金正日の義理の弟だった張成澤があげられる。張成澤は 2013 年 12 月 12 日の国家安全保衛部による特別軍事裁判で刑法 60 条に基づき死刑を宣告された。判決はすぐに執行されたと 12 月 13 日の朝鮮中央通信は報じた。この日の朝鮮中央通信は張成澤を「反党反革命宗派分子」と規定している。朝鮮中央通信の報道文では「反党反革命宗派分子」は，the anti-party, counter-revolutionary factional elements と英訳されている。朝鮮中央通信によれば，張成澤は刑法第 60 条により直ちに処刑された。朝鮮民主主義人民共和国法典(2012)に掲載されている刑法第 60 条「祖国転覆陰謀罪」は次のようになっている。

「反国家目的で政変，暴動，示威，襲撃などに参加したり、陰謀に加担した者は 5 年以上の労働教化刑に処する。情状が特に重い場合には無期労働教化刑又は死刑および財産没収刑に処する」。

金日成，金正日や北朝鮮当局を批判する示威すなわちデモを行おうとすれば，情状によっては無期労働教化刑又は死刑に処せられるのである。張成澤の場合，この条文の「反国家目的で政変」が適用され処刑されたのだろう。「反国家目的」とは何であるという定義はない。朝鮮中央通信報道文には「万古逆賊」（traitor for all ages）の朴南基を背後で操り，2009 年に数千億ウォンを乱発して膨大な経済混乱を引き起こした張本人は張成澤であると述べている。報道文には張成澤の側近として李竜河，張秀吉という名前も出てくるので，この二人も処刑されたと考えられる。次に，北朝鮮の刑法で「反党反革命宗派分子」「万古逆賊」に関連すると考えられる条項をみておこう。

（5-2）北朝鮮の刑法にある祖国反逆罪，民族反逆罪と「十大原則」

刑法第 63 条「祖国反逆罪」，第 68 条「民族反逆罪」は次である。

「公民が祖国に背反し他の国に逃げたり投降，変質したり秘密を渡したような祖国反逆行為を行った場合, 5 年以上の労働教化刑に処す。情状が特に重い場合，無期労働教化刑もしくは死刑および財産没収刑に処す」。（63 条）

「朝鮮民族として帝国主義の支配の下，わが人民の民族解放運動と祖国統一のための闘争を弾圧したり，帝国主義者に朝鮮民族の利益を売り渡す民族反逆行為を行った者は 5 年以上 10 年以下の労働教化刑に処する。情状が特に重い場合，

無期労働教化刑もしくは死刑および財産没収刑に処する」。（68 条）
北朝鮮の住民は勿論だが,在日本朝鮮人総連合会に所属している方が「投降」「変質」「秘密を渡す」，あるいは「帝国主義者に朝鮮民族の利益を売り渡す民族反逆行為」を行った場合, 5 年以上の労働教化刑になる。情状が特に重い場合，無期労働教化刑もしくは死刑および財産没収刑に処されてしまう。「投降」「変質」「秘密を渡す」「帝国主義者に朝鮮民族の利益を売り渡す民族反逆行為」とは具体的に何なのか、定義がないので不明である。「朝鮮民族の利益」とは何なのだろうか。
在日本朝鮮人総連合会の方が平壌を訪れたとき,面会した人に金日成や金正日の女性関係や「招待所」での奢侈生活にかかっていた費用について質問をすれば「投稿」「変質」「帝国主義者に朝鮮民族の利益を売り渡す民族反逆行為」を構成しうるのではないか。無期労働教化刑や死刑にもなる場合があるのに，どのような言動を行ったらその罪に相当するのかが抽象的かつ曖昧である。曖昧な規定の解釈を決定するのは，北朝鮮当局としか考えようがない。刑法第 8 条には次の記述がある。
「共和国領域外で共和国に反対したり，共和国公民を侵害した他国の者に対してもこの法を適用する」。
「共和国に反対」とは一体何なのか，定義がない。「共和国領域外」と明記しているのだから北朝鮮当局としては，北朝鮮の刑法は全世界で適用されてしかるべきと考えているのである。北朝鮮の刑法を全世界で適用されるようにするためには,朝鮮人民軍が全世界に侵攻して制圧せねばならない。北朝鮮が核ミサイルをどれだけ保有していても全世界の制圧など無理だから，この条文は非現実的である。しかし北朝鮮社会は,朝鮮労働党から最高人民会議に提出された文書を正面から否定する人物は処刑されうるから，この条文の非現実性を誰も指摘できないのだろう。刑法第 70 条「朝鮮民族敵対罪」は次である。
「他国の者が朝鮮民族を敵対視する目的で海外に常駐したり滞在する朝鮮人の人身，財産を侵害したり民族的不和を引き起こした場合には 5 年以上 10 年以下の労働教化刑に処する。情状が特に重い場合には 10 年以上の労働教化刑に処する」。
刑法に「敵対視」の定義がない。刑法第 8 条と第 70 条を考慮すると，日本人や韓国人，北朝鮮に入国した外国人が金日成,金正日や在日本朝鮮人総連合会を批判すると「朝鮮民族敵対罪」を構成しないだろうか。日本や韓国に居る人々を 5 年以上 10 年以下の労働教化刑に処するためには，国家安全保衛部や朝鮮労働党作戦部所属の武装工作員，朝鮮人民軍の特殊部隊が日本や韓国に侵入してその人を拉致し北朝鮮に連れ去るしかない。そういう事態が今後生じないという保証はどこにもない。

(5-3)「党の唯一思想体系確立の十大原則」と国家安全保衛部の業務

実際に国家安全保衛部が「政治犯」を逮捕し政治犯収容所に連行する際には，刑法ではなく金日成の「教示」や金正日の「お言葉」に依拠していると考えられる。「党の唯一思想体系確立十大原則」の五「偉大な首領金日成同志の教示の執行において，無条件性の原則を徹底して守らなければならない」の一は次である。

「偉大な首領金日成同志の教示を，すなわち法として，至上の命令として受けとめ，いささかの理由も口実もなしに，無限の献身性と犠牲精神を発揮して無条件に,徹底して貫徹しなければならない」(朝鮮労働党中央委員会 1974 より)。

「十大原則」は金日成の教示はそのまま法であり無条件に実行せねばならないと定めている。国家安全保衛部の業務について細かく定めている「教示」「お言葉」が存在しているのだろう。「十大原則」の五「偉大な首領金日成同志の教示の執行において，無条件性の原則を徹底して守らなければならない」の五は次である。

「偉大な首領金日成同志の教示執行台帳を作成して，教示執行状況を正しく総括し，再配置する活動を間断なく深化させ，教示を中途半端にせず，最後まで貫徹しなければならない」。

国家安全保衛部に,「偉大な首領金日成同志の教示執行台帳」が存在している可能性がある。張成澤は「十大原則」の九の六にある「個別的幹部の越権行為，職権乱用」を犯したとみなされたのではないだろうか。これは次である。

「個別的幹部が越権行為をしたり，職権を乱用するような，あらゆる非原則的な現象に反対し，積極的に闘争しなければならない」。

北朝鮮の刑法と「十大原則」を読めば,「反党反革命分子」「民族反逆者」とみなされた人が政治犯収容所送りないしは処刑されうることは明らかではないか。

6.北朝鮮当局公表資料と北朝鮮居住・滞在経験者の処刑，追放に関する見聞の照合

金日成のいう「処断」には,公開処刑が含まれていると考えられる。北朝鮮に居住経験のある人で公開処刑を目撃した人は少なくない。また「反党分子」とされた人々が処刑されたという脱北者や在日本朝鮮人総連合会関係者もいる。以下，在日本朝鮮人総連合会関係者，脱北者，拉致された韓国人と不破哲三による処刑と追放に関する見聞事実を照合しよう。

（6-1）脱北者，拉致された韓国人，在日本朝鮮人総連合会関係者，不破哲三の見聞事実

（6-1-1）金乙星, 呂政（1950 年代後半から 60 年代前半）

金乙星は 1956 年頃に，朝鮮労働党内部で権力闘争があり，著名な幹部たちが除名ないしは中国に亡命したと述べている（金乙星（1997,pp24-25））。金乙星(1997, pp. 41-42)によれば，1956 年の労働党第三回大会から 1961 年の第四回大会までの間に，金乙星が通っていた平壌の高級党学校の学生の約三分の一が反党分子または宗派分子として追放された。「集中指導作業」という，労働党員，幹部はもちろん一般市民まで含めた全人民の思想点検と身分調査が行われた。各人民班から住民一人残らず戦前戦後の経歴を提出させた。虚偽の経歴を書いたのが暴露され，朝鮮戦争中米軍の手先になった人，スパイとして共和国に残った人など最も悪質と認定された人は公開の人民裁判で死刑の判決を言い渡され，群衆の面前で処刑されたと金乙星(1997, pp. 41-42)は記している。刑務所に入れられる人，現在の職業や地位を降格，解任される人，地方の炭鉱や農場に追放される人もいたとある。

朴憲永，李承燁については，東亜日報・韓国日報編(1992, pp. 224-229)が詳しい。この本の第 2 部の筆者は元朝鮮人民軍師団政治委員の呂政という人物である。呂政は朴憲永，李承燁が処刑されたと述べている。呂政は 55 年 12 月に，党中央が全国扇動者会議を招集し，そこで金日成が「教条主義と形式主義を取り除き，党の理念的課業の中に主体性を確立しよう」という演説を行ったと述べている（前掲著 p256）。呂政が記している金日成の演説内容と，論文 3 の題名及び内容は似ている。呂政は 1958 年から 1959 年にかけて，「反党宗派分子」という罪名で，刑場で殺害された人々は数百人，監獄に囚われた人は千数百人，山中深くに追われた人は無数に及ぶと述べている（前掲著 p349）。これは前述の金乙星の証言と概ね符合している。「宗派分子」という語は金日成選集や著作集では確認できなかったが，朝鮮語の「宗派分子」を「分派分子」と訳したからではないだろうか。「宗派」という言葉は日本語では，宗教の一派という意味になる。

（6-1-2）不破哲三(1960 年代)

赤旗編集局編(1992)掲載の不破哲三のインタビューによれば，不破哲三は 1966 年 3 月と 1968 年の 8, 9 月に日本共産党代表団の一員として北朝鮮を訪問した。二度目の訪問時，8 月 23 日から「大同江招待所」で日朝両党会談が行われた。

不破哲三によれば，ここで顔をあわせた朝鮮労働党側の顔ぶれが，二年前とまったく変わり，金日成以外はいれかわっていた。朴金喆と李孝淳という二人の副委員長が姿を見せなかった。不破哲三は，この二人が 1967 年 5 月の朝鮮労働党第十五回中央委員会総会で「ブルジョア分子，修正主義分子」として断罪され追放されたことが後でわかったと述べている。不破哲三のこの話も，60 年代後半に朝鮮労働党中央で粛清があったことの傍証である。朴金喆と李孝淳は処刑ないしは政治犯収容所送りになった可能性が高い。彼らと近い関係にあった人々も，追放処分などになった可能性が高い。

（6-1-3）北朝鮮に拉致された韓国人李在根

北朝鮮により拉致された韓国人李在根は，1983 年 3 月に初めて公開処刑を見た（李 2002, p107）。糧政事務所の倉庫長が食糧の盗み食いにより，川の堤防で人々が見ている中，絞首刑になった。1983 年に始まった公開処刑は，2 年に 1 回くらいだったが 90 年代に入ると年 2,3 回に増えた。北朝鮮では労働者が幹部を罵ったり，喧嘩を売ることは党中央委員会に対して反逆をしたとみなされる。李在根が住んでいた地域でそういう者は数十人になった（同書 p109）。

（6-1-4）朴春仙と日本人妻斎藤博子

朴春仙(1994)によれば，在日本朝鮮人総連合会の中央芸術団に所属していた兄の朴安復は北朝鮮に帰国後，平壌放送のアナウンサーになった。平壌在住だった兄一家は昭和 55 年（1980 年）の春頃，姿を消してしまった。朴春仙は昭和 62 年（1987 年）5 月に北朝鮮を訪問した。端川という地方都市に親族は住んでいる。朴春仙が親族の家まで行ったところ，突然音信不通となっていた兄嫁と姪っ子らが現れたが，兄は現れなかった。日本に戻ってから朴春仙と妹は在日本朝鮮人総連合会に安否確認を繰り返し要求したところ，兄はスパイ罪で 1985 年 8 月 21 日に銃殺されたという情報が得られた。次の北朝鮮訪問で，1980 年 3 月 30 日の朝，国家保衛部が家に押しかけてきて兄と家族全員を連行したことがわかった。同じ日に，平壌放送の 26 人の職員が同様に連行されたという。朴春仙の手記には，銃殺された兄の裁判や判決の記述はない。日本人妻斎藤博子(2010, pp. 76-80)も，公開処刑を 2,3 回見に行かされたと述べている。各自が所属する人民班を通して，公開処刑を見るように指示されたらしい。

（6-1-5）白栄吉の話「火刑」

朝日新聞アエラ編集部（1997）によれば，公開処刑を見たと話しているのは白栄吉(p132)，金昌花(p157)，チェ・スンチャン(p201)，カン・チョルファン(pp. 221-222)，呂銀龍(p297)である。白栄吉によれば，平安北道龍川郡クチョン機械工場から逃げ出した 2 人が 10 人のメンバーを集めて「生活調整員会」という組織をつくった。このグループは労働党幹部や金持ちの家を襲撃して金品を奪い，「貧乏な人に物を分け合い平等に暮らしなさい」などのメモを残した。88 年 6 月に全員が逮捕され，首謀者 2 人が火あぶりになったという。2 人は銃殺,残りは政治犯収容所送りとなった。チェ・スンチャンによれば 95 年から開城でも銃殺刑が始まった。1,2 ヶ月ごとに 3 人ずつ，計 15 人くらい銃殺された。盗掘した骨董品の販売人，牛を殺して密かに食べた人などが銃殺刑になった。

（6-1-6）黄長燁の知人はロシア当局とつながりを疑われて何処かに連行された

黄長燁（1999, pp. 315-318）によれば北朝鮮では 1994 年以降食糧事情が悪化していった。金正日は食糧不足を解決しようとせず，秘密警察網を強化し，少しでも反体制的要素があれば首謀者を探し出して公開，または非公開で裁判もなしに銃殺した。黄長燁（1999, pp. 326-329）によれば金牡丹という 1966 年生まれでロシアのカザン総合大学ロシア文学科を卒業し主体科学院で美学を専攻している女性がいた。彼女の夫は黄長燁が指導していた国際問題研究所の研究員だった。黄長燁は金牡丹をモスクワでの国際討論会に通訳として連れて行った。平壌に戻ってから数日後，金牡丹の夫が黄長燁のところに訪ねてきた。夫によれば，金牡丹は人民武力部の保衛部により逮捕されどこかへ連れて行かれてしまった。黄長燁が「よく知っている系統」を通じて金牡丹について調べたところ，彼女の卒業論文の指導教授が外国人留学生活動の責任者なので，指導教授は必ずロシア諜報当局とつながりがあるはずだから連行されたという。黄長燁にこのことを教えてくれた人物は，金正日の命令で反金正日組織といささかでもかかわりのある人間たちは無条件に銃殺することに決定されたから介入しないほうが良いと言った。金牡丹の夫は地方に追放された。これだけで，金牡丹が銃殺されたと断言することはできないが，前述の朴春仙の兄，朴安復の銃殺の話と似ていることは間違いない。北朝鮮では,「政治犯」に裁判と言えるような制度はないらしく，国家安全保衛部により「疑わしきは銃殺」「疑わしきは収容所送り」という場合がある。金日成がそのように「教示」，あるいは金正日の「お言葉」がそのように定めている可能性がある。

（6-2）処刑を断行する国家安全保衛部に所属していた脱北者の話

脱北者たちによれば，泥棒などの経済犯の処刑を行うのは社会安全部（人民保安省）である。朝鮮人民軍に関連する疑わしい人物に対しては,人民武力部の保衛部が処刑などの処分を担当している。そのほかの政治犯や疑わしい人物に対しては,国家安全保衛部が処刑や政治犯収容所への連行を行う。尹大日は国家安全保衛部の要因だった。尹（2003, p272）によれば,1995 年から 1998 年の間,一つの郡で年平均 10－12 名が公開処刑された。これを全国的に合算するとこの期間に最低でも 2000 人が公開処刑されたと尹は推定している。

脱北者，拉致された韓国人，日本人妻，在日本朝鮮人総連合関係者や不破哲三それぞれの見聞事実の一つ一つを完全に確認することは困難だが，北朝鮮では「反党宗派分子」と北朝鮮当局によりみなされた人々は処断，追放されうることは，これだけでも明らかではないだろうか。

（6-3）黄長燁が語った北朝鮮当局の統計偽造と金正日の論文作者等について

黄長燁（1999）には，北朝鮮当局がどのように運営されているかについて重要な情報がある。勿論，これらが全て真実とは断定できない。黄長燁の思い違いや記憶間違いはありうるからだ。黄長燁がもたらした情報については，別の脱北者の話を聞くなどで確認していかねばならない。今後のためいくつか紹介しておこう。

（その 1）「文書整理室」と統計の偽造

黄長燁（1999, p266）によれば, 80 年代後半に黄長燁がまかされた「文書整理室」という部署には，北朝鮮で取り扱う各種の統計が集中していた。ここにある統計では,北朝鮮の経済は金正日が後継者として浮上した 1975 年から下降し,1985 年以降からは急激に悪化していることを示していた。しかし北朝鮮当局は金正日の指示により虚偽の数字を金日成に報告し，外部にも各種統計を偽って発表してきた。

（その 2）黄長燁は金正日の名前で論文を書いた

黄長燁（1999, p258）によれば，1987 年に黄長燁は金正日の名前でいくつかの重要論文を書いた。黄長燁（1999, pp. 272-273）によればソ連崩壊後に金正日の名前で「われわれ式に生きていこう」「朝鮮民族第一主義」などの論文が発表された。これらは，宣伝部の 216 号室と組織部の教示編纂課職員らが書いたものだった。対南工作機関から，韓国の運動圏の学生たちが混乱し，「人民中心のわれわれ式社会主義は必勝不敗である」といった程度の文章では彼らを鎮静化させられないと言ってきた。そこで黄長燁は文書整理室要員たちを指導し，「社会主義建設の歴史的教訓とわが党の総路線」という論文を書いて金正日の名前で発表した。この論文により韓国の運動圏の学生たちは鎮静化したと対南工作部署

が言ってきた。

（その 3）**外国人との面談は面談整理課で録音**

黄長燁（1999, p287）によれば主体思想の討論会ではない外国人との面談は面談録整理課でかならず録音し金正日に報告することになっていたので，黄長燁は理論問題を自由に対話できなかった。

（その 4）**朝鮮労働党の統一戦線事業部が在日本朝鮮人総連合会を指導**

黄長燁（1999, pp. 363-369）によれば在日本朝鮮人総連合会を指導しているのは朝鮮労働党の統一戦線部だった。統一戦線部は対南工作を専門にする部署であるが，1983 年から日本の各政党の工作も担当するようになった。他に社会文化部，作戦部と対外調査部が対南工作を担当している。社会文化部は 1998 年に対外連絡部と名前を変えた。統一戦線部は外交活動と宣伝活動を担当する。1998 年以降，社会文化部が在日本朝鮮人総連合会や海外同胞の秘密組織の活動を担当するようになった。対外調査部は 35 号室とも呼ばれ，第三国に駐在しながら対南活動を行う。大韓航空機を爆破した金賢姫は対外調査部に所属していた。作戦部は，スパイを韓国や必要な地域に派遣しテロや破壊活動を行う。黄長燁と同様の主張をする脱北者，在日本朝鮮人総連合会関係者は少なくない。

金東植（2013, pp. 207-212）によれば統一戦線事業部（略称は「統戦部」）が在日本朝鮮人総連合会や韓国，海外の組織の指導と対南宣伝扇動すなわち対南心理戦を行っている。金東植は 1962 年黄海南道生まれで，1981 年 3 月に金正日政治軍事大学（別名は 130 連絡所）に入学以来朝鮮労働党中央委員会の対外連絡部対南工作員として活動した人物である。朴斗鎮（2008, pp. 206-209）は統一戦線事業部には 6 つの部署があり，そのうち在日本朝鮮人総連合会を担当する部署の課長が在日本朝鮮人総連合会を指導していると述べている。韓光熙（2002, pp. 145-149）によれば，朝鮮労働党の工作機関には連絡部，調査部，作戦部，統一戦線部と 4 つの部署がある。このうち統一戦線部総連指導課が「学習組」という非公然組織の指令系統を使って在日本朝鮮人総連合会を指導している。在日本朝鮮人総連合会が調達したお金を北朝鮮に持って帰るのは総連指導課の仕事である（同書 p147）。工作機関の各部署から派遣されてくる指導員の最大の仕事は，それぞれの部署につながる在日非公然組織をつくることである。北朝鮮工作員が韓国に非合法手段で入国するための足場を非公然組織が提供していた。工作員本人が日本人名義の旅券を入手し，本人になりすまして韓国に入国することなどである。1970 年代当時，作戦部所属の在日非公然組織がおよそ 20，連絡部所属が約 30 あったと韓光熙（2002）は述べている。

これらだけで，在日本朝鮮人総連合会に所属している研究者や評論家が北朝鮮について研究し発表した文献は全て，朝鮮労働党の対南工作機関のどこかの部署の指導を受けた宣伝活動の一環であるなどとは言えない。しかし，統一戦線

事業部のような対南工作機関から直接の指示を受けて，日本人拉致や「忠誠金」稼ぎなどの活動を行う非公然組織が今でも在日本朝鮮人総連合会関係者の中に存在している可能性は高い。その中で，「対南心理戦」の一環として北朝鮮に関する著作や論文を発表している方がいてもおかしくない。政治家や在日本朝鮮人総連合会に所属している研究者，評論家が北朝鮮を訪問して誰かと会う場合、室内であれば盗聴器や録音機が備え付けられていて「面談整理課」のような部署に面談内容が報告されている可能性がある。不破哲三は 1968 年 8 月末の訪朝時，宿舎の暖房装置の裏側に盗聴器を発見したと述べている（赤旗編集局 1992, pp. 34-35）

7．金正日の「党経済」「宮廷経済」

（7-1）金日成,金正日の年収や保有金融資産,居住地と消費生活が非公表

北朝鮮の公表文献では，金日成，金正日は「偉大な首領」「絶世の偉人」「百戦百勝の鋼鉄の霊将」である。それほどの人物は，どこで暮らし、どのような財を消費し生活していたのだろうか。金日成，金正日の年収や保有している金融資産はどのくらいだったのだろうか。北朝鮮当局の公表文献では，金日成や金正日の年収，居住地域と消費，金融資産について何も述べていない。「偉大な首領」「絶世の偉人」「百戦百勝の鋼鉄の霊将」にふさわしい高級居住環境で最高の所得を得ていたと推測するしかない。北朝鮮の経済が社会主義計画経済として政務院により作成された経済計画に基づき財が配分されているだけなら，金正日は配給と給与所得により生活していたことになってしまう。金日成や金正日の年収や保有している金融資産について疑問を公言することそれ自体が，女性関係への疑問と同様に前述の「民族反逆罪」「朝鮮民族敵対罪」を構成するのかもしれない。金正日の私生活については,専属寿司職人だった藤本健二の一連の著作が重要な資料である。

（7-2）「大将同志」金正恩は藤本をなぜ暖かく迎えたのかー亡き両親への思いー

藤本健二の一連の著作（2003）（2004）(2006)により，金正日の奢侈生活や金正恩と妹金予正の存在が明らかになった。金正日が給与や配給を受け取っていたという記述はない。金正恩が金正日の三男であることや，金予正が金正日の何番目の娘であるという北朝鮮当局の公式発表はまだない。藤本は著書を出版した後,北朝鮮当局からの招待で平壌に行き,2012 年 7 月 22 日に金正恩と会った。金正恩は暖かく藤本を迎えたと藤本(2012)に記されている。金正恩は藤本の著

書を読んでいるだろうから，勘違いや記憶違いはあろうものの著書の記述を概ね金正恩は認めたと考えるべきだろう。藤本は「大将同志」というあだ名を金正恩につけていた。金正恩には，亡き両親の側近だった藤本と旧交を温めたいという気持ちがあったのではないか。

藤本の「核と女を愛した将軍様」（2006, 第 3 章）には金正恩の母，高英姫との交流が良く描かれている。高英姫は元在日朝鮮人だから，北朝鮮社会に金正日の正式の夫人として登場できなかった。金日成が金正日と高英姫との関係を認めなかったのではないだろうか。幼少期の金正恩が祖父金日成と一緒にいる写真がいまだに出てこないのはいかにもおかしい。藤本は，高英姫が乳癌ではなく脳梗塞により亡くなったのではと推測している（藤本 2006，pp. 102-103）。睡眠時間が連日 4 時間未満だったのではないかと藤本は推測している（藤本 2006, p107）。金正恩からみれば，藤本は出自のため公の場に殆ど出られず，若くして亡くなった母の肉声を世の中に広めてくれた人物である。金正日が藤本を「藤本バカヤロー」と呼んでいたこと，寅さん映画や勝新太郎の「座頭市」を良く観ていたこと，1993 年に乳癌の治療でフランスに行っていた高英姫と会えない寂しさから涙を流していたことなどは「金正日伝」等北朝鮮当局の公表文献には全く出てこない。

北朝鮮各地にある「招待所」で贅沢三昧の暮らしをする金正日の素顔を藤本は伝えている。藤本（2004, pp. 20-21）によれば藤本は金正日と十数か所の招待所に同行した。特殊な機関のみが使っている招待所も存在している。金正日と同行した各招待所の共通点は，20~30 人は収容できる映画館があること，射撃場があること，妙香山招待場を除き大がかりな舞台があること，遊技台があることである。元山招待場には「移動プール」がある。これは数時間かけて北にある 72 号招待所（ハムフン）まで曳航されることもある。各招待所の維持費用だけで相当な額になるはずだ。各招待所の庭の手入れや清掃などの維持業務に携わる人，「喜び組」や料理人だけで使用人は 100 人を越えそうだ。各招待所は金日成，金正日の私有物だったのか。それとも金日成，金正日そして金正恩は国有財産を自由に使用，処分する権限を持っているのか。後者とみなすべきだろう。金日成，金正日の私有物なら各招待所の建設，維持費用，使用人の給与を金日成，金正日は自分の所得や保有金融資産から支払っているはずだ。各招待所の建設費用,維持費,招待所での遊興費,食費が金日成，金正日の給与から支払われていたとは考えられない。

（7-3）外貨稼ぎを管理する組織,39 号室

藤本や李韓永（1996）（2003）が赤裸々に描き出した金正日一家の奢侈生活の費

用はどこから調達されていたのだろうか。多くの脱北者は政務院が管轄する国家予算とは別に，金正日の直轄下に 39 号室という国民に外貨稼ぎをやらせる部署があると言う。北朝鮮当局の公式文献では 39 号室の存在を確認できないが，相当額の外貨が様々な部署から 39 号室に献上されていると考えられる。黄長燁（1999-2, pp. 137-138）によれば，39 号室の指導のもと，道・市・郡に至るまで外貨稼ぎの課題を与え，輸出品となる物資を金正日に献上させている。金正日は軍の経済を国家経済から独立させた。軍の経済は金正日の直接指導下にある軍需工業部が管理している。国家経済は党経済と軍経済に従属している。

（7-4）金正日の「党経済」「宮廷経済」

玉城素は北朝鮮の経済が積木細工的な三重構造になっていることを早くから指摘していた。玉城（1996，pp. 201-203）によれば，政務院の主管する第一経済は民生部門を含む一般経済である。経済計画や国家予算はここに集約される。「第二経済」と呼ばれる分野は第二経済員会が管轄する軍事経済部門である。第二経済には重要な発電所や製鉄所，機械工場，非鉄金属、化学工場や貿易商社、銀行がある。第三経済は金日成，金正日に直属する党経済で，39 号室が運営している。39 号室は独自の商社や銀行を持っている。工場や国営農場内に，金日成，金正日用の最高品質の製品や作物を生産する職場、農場がありそれも党経済を構成している。

金光進（2007）によれば、北朝鮮には金正日とその親族、特権層のための奢侈財生産や軍需生産を担当する宮殿経済がある。現在の北朝鮮では、「社会主義中央計画経済」のような部門の比重は少なくなっている。経済のドル化が進み闇市場での商売で外貨を得て生計を維持する人が増えている。「宮廷経済」は主に外国を相手にして利益を得ている。北朝鮮の社会経済は、「社会主義」というより政治的な競争も含めた弱肉強食の社会経済になっている。金光進（2007, p15）は北朝鮮の経済全体で「人民経済」が占める割合は 40～60%，宮廷経済が占める割合は 40～60%と推測している。宮廷経済を党経済と軍需経済に区分すると，党経済の占める割合は全体の 10～20%，軍需経済の占める割合は 30～40%と推測している。稼働率では，人民経済が 20%，党経済と軍需経済はどちらも 50～60%と推測している。

金正日が主導して作ってきた「宮廷経済」と 39 号室は金正日の死後，誰がどのように運営しているのだろうか。この点は殆どわかっていない。張成澤が 39 号室に上納される外貨を何らかの方法で自分の手元に集めようとした可能性を指摘しておきたい。

8. 元在日朝鮮人高英姫の存在は金正日の「心の秘密」—金正日が直面した矛盾

「全社会がチュチェ思想化」されているという北朝鮮社会で天寿を全うすることは、朝鮮労働党の最高幹部でさえ困難である。張成澤の最期を知らせた朝鮮中央通信の報道文はそれを示している。現在北朝鮮当局を構成する最高幹部の心中は,「次は自分か」というものではないだろうか。これでは独裁者金正恩でさえ，いつ誰に裏切られるかわからないという不安を抱いて生きていかざるをえない。金正日もそうだったのではないか。孤独な独裁者金正日は，気軽に自分に直言してくれる人物を求めていたのではないか。藤本によれば晩年の金正日最愛の女性は元在日朝鮮人（帰国者）の高英姫だった。元在日朝鮮人は自由な日本社会で育っているから,生きていくためには様々な選択肢があることを知っている。目上の人間にも気軽に意見を言える。元在日朝鮮人は「十大原則」が定めている「絶対性，無条件性」に欠けている。この点で高英姫は，全社会のチュチェ思想化という環境で育った北朝鮮の女性と大きく異なっていたはずだ。高英姫は自由な発想で金正日に直言ができたのではないか。映画と音楽に造詣のあった金正日は,優れた映画や音楽を産出する西側世界に憧憬感情を抱いていた。金正日は自分が白頭山で生まれ育っていないことを知っている。金正日は金日成がハバロフスク近くで終戦を迎えたことを知っている。金正日の著作はどうあれ，金正日は内心ではチュチェ思想など信じていなかった。金正日が金正男，金正哲，金正恩，金予正らをスイスの学校で勉強させたのは，子供たちに広い視野と自由な思考を体得させたかったからだろう。優れた独裁者となるためには，部下を多面的に把握できねばならない。独裁者がチュチェ思想を本気で信じたら，表面では忠実に見える部下の内心の裏切りを見破れない。しかし広い視野と自由な思考を体得すると金正男のように改革・開放を支持するようになってしまい後継者たりえない。晩年の金正日はどうしようもない矛盾に直面していた。

晩年の金正日が最愛の女性高英姫を公開できなかったこと，その息子金正恩が後継者となったが母の存在を未だに公開できていないことは，今後の北朝鮮の行く末を考えるうえで極めて重要である。金正日は自分の女性関係を徹底的に隠ぺいしてきた。元在日朝鮮人と愛情関係を育んでいるなら,「党中央」の権威が地に落ちてしまうからだ。北朝鮮で生まれ育った人々は，どういうわけか元在日朝鮮人（帰国者）を嫌う。元在日朝鮮人（帰国者）も同様で，北朝鮮で生まれ育った人々を陰では「アパッチ」「原住民」という語でよぶ。

「十大原則」で「党中央」と規定されていた独裁者金正日でも，北朝鮮で生まれ育った人々の元在日朝鮮人に対する心の壁を取り払うことまではできなかった。チュチェ思想を幼少時より教え込まれている北朝鮮の人々は血統を重視す

る。北朝鮮の人々は金日成が白頭山でパルチザンとして活動し日本帝国主義を破ったという虚偽の「白頭山血統」を信仰している。金正恩は母親が元在日朝鮮人であるなら,「白頭山血統」というより「富士山血統」とみなされかねない。高英姫の縁戚は済州島にいるようだが，それなら金正恩は「漢拏山血統」ともいえる。血統だけでみるなら,長男金正男のほうが後継者にふさわしいと考える朝鮮労働党大幹部がいてもおかしくない。中国共産党はそれを熟知しているから,金正男を保護しているのだろう。中国に長く滞在している金正男は中国の「関係筋」ともいえようが,単なる滞在経験ではない可能性を指摘しておきたい。

9. 終わりに—「反党反革命宗派分子」の末路と「十大原則」—

本稿は,北朝鮮当局の公表資料と北朝鮮に居住,滞在経験のある人の話を照合して,北朝鮮では体制に不満を抱きそれを漏らした人々が処刑ないしは「管理所」という政治犯収容所に連行されうることを示した。朴憲永，李承燁が具体的にどのように「処断」されたのかは不明だが，処刑された可能性が高い。北朝鮮では，処刑の方法として火炙りを用いることもあるらしい。張成澤がどのような方法で処刑されたかは不明である。張成澤ら政治犯が極刑判決をだされる前に抗弁の機会があったのか,弁護人がいたかどうかは確認されていない。平壌放送のアナウンサーだったが行方不明になった元在日朝鮮人朴安復の場合，銃殺された可能性はある。裁判の有無は確認できていない。公開処刑を見聞した脱北者は数知れない。張成澤のように「罪状」が公開される例は稀と言える。朝鮮労働党の高位幹部でも，公の場に全く出てこなくなる人物は少なくない。「反党反革命宗派分子」を摘発し処断する国家安全保衛部の大幹部でも同様である。脱北者の中には，公の場に出てこなくなった大幹部たちが処刑ないしは政治犯収容所送りになったという情報を提供する方がいるが様々な情報がある場合，確定するのは極めて難しい。例えば金正日の妹金敬姫は張成澤処刑後，金国泰の葬儀委員になったという朝鮮中央通信の報道があったきりで，動静が伝えられていない。病死説，張成澤処刑への抗議の自殺説，病が重くて出てこられないという説等様々だ。金正日の「社会的政治的生命体論」から見れば張成澤は領袖，党、大衆から離れた孤立した生活をすることになったともいえよう。張成澤の妻金敬姫も領袖，党，大衆から離れた孤立した生活をしているのかどうか，確認しようもない。藤本（2012, pp. 61-71）に掲載されている張成澤の写真と言動は，知的で穏やかな人物像を思わせる。談笑する金正恩と李雪柱の前で藤本と握手する張成澤の姿から, 1 年 5 か月後の悲惨な運命を想像することは難しい。

改めて文氏に問う。金正日の「裏の顔」「心の秘密」は，北朝鮮当局の公表資

料と金正日の側近の話を照合してこそ，理解できるのではないか。「仁徳政治」を行っているという金日成，金正日の「裏の顔」，残虐性は，「反党反革命宗派分子」が処刑ないしは政治犯収容所送りになってきたことから明らかだ。
北朝鮮当局公表資料の利用を主張する文氏は，「反革命分子」の処断を主張する金日成や金正日の著作と，張成澤の処刑を伝える公表資料や「祖国反逆罪」「民族反逆罪」を北朝鮮の領域外でも適用すると述べている刑法をどう利用しているのだろうか。「十大原則」は北朝鮮当局作成の非公表資料だが，文氏は「十大原則」を無視しても北朝鮮社会を分析できると考えているのだろうか。「十大原則」の最後は次である。
「すべての党員と勤労者は，党の唯一思想体系を確固として打ち立てることによって，誰もがすべて，偉大な首領金日成同志に限りなく忠実な近衛隊，決死隊とならなければならず，首領の教えの道に従って革命偉業を最後まで完成していかねばならない」。
「すべての党員と勤労者」が「十大原則」を守らねばならないのである。これは金正日が説いた「全社会のチュチェ思想化」「全社会の金日成主義化」の基本ではないだろうか。在日本朝鮮人総連合会関係者が「全社会のチュチェ思想化」を公の文献で否定すれば，「祖国反逆罪」もしくは「民族反逆罪」を構成しないだろうか。「十大原則」の一は次である。
「偉大な首領金日成同志の革命思想で，全社会を一色化するために命を捧げて闘争しなければならない」。（文中敬称略）。

参考文献

日本語

赤旗編集局編(1992)「北朝鮮覇権主義への反撃」新日本出版社
朝日新聞アエラ編集部（1997）「北朝鮮からの亡命者 60 人の証言」朝日文庫
黄長燁（1999）「金正日への宣戦布告」文藝春秋
黄長燁（1999-2）「北朝鮮の真実と虚偽」光文社
韓光熙（2002）「わが朝鮮総連の罪と罰」文藝春秋
康明道（1998）「北朝鮮の最高機密」文春文庫
金乙星(1997)「アボジの履歴書」（財）神戸学生青年センター出版部発行
金正日(1995)「チュチェ思想の継承発展について」外国文出版社
金南鎮(1996)「金正日　その指導者像（上）」雄山閣
金日成（1962，64）「金日成選集」）日本共産党中央委員会出版部発行
金日成（1966）「金日成二巻選集」日本共産党中央委員会出版部発行
金日成（1970）「金日成著作集」1，2 巻未来社
金日成（1982,1985,1987）「金日成著作集」9 ,10, 21, 29 巻外国文出版社

黒坂真（2013-1）「文浩一著『朝鮮民主主義人民共和国の人口変動:人口学から読み解く朝鮮社会主義』『比較経済研究』第 50 巻第 1 号，pp. 71-75
黒坂真（2013-2）「金日成と資源配分の効率性」『大阪経大論集』第 63 巻第 5 号，pp. 171-180
黒坂真(2013-3)「社会主義独裁体制と革命費用」『大阪経大論集』第 64 巻第 3 号，pp. 159-168
黒坂真(2014-1)「金日成の著作の記述削除，修正と金正日の『社会政治的生命体論』『革命的首領観』」『大阪経大論集』第 65 巻第 3 号，pp. 27-41
黒坂真(2015)「『党の唯一思想体系確立の十大原則』は『二次資料』『関係筋の情報・資料』なのか―文浩一氏による拙稿へのコメントに関して―」『Osaka University of Economics Working Paper Series No. 2014-4』
斉藤博子（2010）「北朝鮮に嫁いで四十年　ある脱北日本人妻の手記」（草思社）
在日本朝鮮人総連合会編（1995）「金正日略伝」雄山閣
徐大粛（2013）「金日成」講談社学術文庫
朝鮮・金正日伝編纂委員会（2004）「金正日伝」白峰社
玉城素（1996）「北朝鮮　破局への道」読売新聞社
朝鮮労働党中央委員会（1974）「党の唯一思想体系確立の 10 大原則」『世界政治－論評と資料』No. 762, 1988. c4. 10
東亜日報・韓国日報編（黄民基訳）（1992）「金日成　その衝撃の実像」講談社
藤本健二（2003）「金正日の料理人」扶桑社
藤本健二（2004）「金正日の私生活」扶桑社
藤本健二（2006）「核と女を愛した将軍様」小学館
藤本健二（2012）「引き裂かれた約束」講談社
文浩一（2011）『朝鮮民主主義人民共和国の人口変動　人口学から読み解く朝鮮社会主義』明石書店
文浩一（2013）「北朝鮮の一次資料は信頼できないのだろうか―黒坂真教授の書評への反論―」『Hi-Stat Vox』No. 28, 2013 年 3 月 25 日
文浩一（2014）「北朝鮮当局公表資料の学問的利用の可能性について:　拙著にたいする黒坂真教授の書評へのコメント」『比較経済研究』第 51 巻第 2 号，pp. 43-50
朴春仙（1994）「北朝鮮よ，銃殺した兄を返せ！」ザ・マサダ
朴斗鎮（2008）「朝鮮総連」中公新書ラクレ
尹大日（2003）「北朝鮮・国家安全保衛部」文藝春秋
李韓永（1996）「平壌『十五号官邸』の抜け穴」ザ・マサダ
李韓永（2003）「金正日が愛した女たち」徳間文庫

韓国・朝鮮語

金光進(2007)「北韓経済のドル化と金正日『宮殿経済』」統一研究第 11 巻第 2 号、延世大学校

金東植（2013）「北韓対南戦略の実体」기파랑

朝鮮中央通信 2013 年 12 月 13 日「共和国刑法第 60 条により張成澤を死刑－国家安全保衛部特別軍事裁判」

朝鮮民主主義人民共和国法典(2012)法律出版社，朝鮮出版物輸出入社印刷